

一 般 演 題 抄 録

27. エックリン汗管の cuticular border と特異的に反応する抗体について (第2報)

鉄田真知子 高橋昌江 愛須きぬ代 手塚 正

近畿大学医学部皮膚科学教室

はじめに

一般に、ヒト汗腺腫瘍の診断に際してエックリン起源か、アポクリン起源か、或るいは汗腺以外の腫瘍か、診断に困難を感じる事が多い。今回我々は、良性皮膚付属器腫瘍のタンパクに対しての抗体作製を試みた所、エックリン汗管の cuticular border と特異的に反応する所見が得られたので前回の内容に更に付け加えて報告する。

方 法

良性皮膚付属器腫瘍組織片を10 Murea を含む 0.5 M Tris-HCl buffer PH 9.2で室温10時間抽出後、15000 G, 20分遠心し、上清を蒸留水で透析を48時間行った。透析後15000 G, 20分遠心し沈澱物を同バッファーに溶解し、2次元電気泳動し14 KD のタンパク PI 9.5の位置に1個のスポットを認めたのでこの14 KD のバンドを集め、ホモジナイズし Freund 完全アジュバンドと混和してウサギの皮下に免疫した。初回免疫後、3週目より毎週免疫し、計5回追加免疫を行った。最終免疫後6日目に頸動脈から全採血を行い抗血清を得た。

結 果

作製した抗体は、酵素抗体法で正常ヒトパラフィン切片標本のエックリン汗管の cuticular border と特異的に反応した。分泌部に関しては淡く細胞内に染色された。正常ヒトアポクリン汗腺には反応を示さなかった。エックリン系の腫瘍(eccrin poroma 3例, clear cell hidradenoma 1例, syringocystadenoma papilliferum 1例, syrinoma 2例 eccrin porocarcinoma 2例)を検討した所, syringoma 以外はエックリン汗管の cuticular border と特異的に染色された。

考 察

- ①今回我々は、良性皮膚付属器腫瘍に含まれている14 KD のタンパクに対する抗体を作製した。
- ②作製した抗体は、正常ヒトエックリン汗管 cuticular border と特異的に反応した。アポクリン汗腺には反応を示さなかった。
- ③作製した抗体は、汗腺系の腫瘍疾患の診断に有用と考えられる。
- ④更に、反応陽性となった14 KD のタンパクと cuticular border との関係について検討する予定である。

28. ペプチド免疫による抗インフルエンザウイルスキラー T 細胞の誘導

正木秀幸 倉根一郎

近畿大学医学部細菌学教室

目 的

in vivo における CTL 誘導機構の解析のためのモデルとして、ナイーブ T 細胞からのペプチド免疫によるインフルエンザウイルス特異的 CTL の誘導を試みた。

方 法

BALB/c マウスを、H-2K^d の binding motif を持つ A 型インフルエンザウイルスの hemagglutinin (H2) の518番目から526番目のアミノ酸配列よりなるペプチド H2:518-526 で感作した同系脾細胞、もしくは CFA と混和された H2:518-526 で免疫し、得られた脾細胞もしくはリンパ節細胞を、同ペプチドで感作された同系脾細胞と共に IL-2 存在下に6日間培養したものを effector 細胞とした。CTL 活性は、ペプチド感作もしくはウイルス感染させた P815 (H-2^d) を target 細胞とした4時間 ⁵¹Cr 放出で測定した。

結 果

ペプチド H2:518-526 による免疫および in vitro

刺激を行った effector 細胞には、H2:518-526 特異的な CTL 活性が認められた。CTL 活性は MHC が H-2^d である P815 や A20.2J を target 細胞として用いた時に限られ、また effector 細胞の抗 Thy1 抗体、抗 CD3 抗体もしくは抗 CD8 抗体と補体との処理により CTL 活性の低下・消失が見られることから、この CTL の phenotype は Thy1⁺, CD3⁺, CD8⁺ であり、この CTL が H-2^d 拘束性であることが示された。

さらに、血清型が H2 のインフルエンザウイルス A/JAP 感染 P815 に対して細胞傷害を示すが、H3 の A/PC に対しては示さないことから、この CTL は H2 ウイルスに対して特異的であることが示された。

要 約

ペプチド H2:518-526 による刺激により、ナイーブ T 細胞から H-2^d 拘束性 Thy1⁺, CD3⁺, CD8⁺ の H2 インフルエンザウイルス特異的 CTL が誘導された。